



特 集

開港40周年を迎えた

空の玄関口 鹿児島空港



<現在の鹿児島空港>



<現在の鹿児島空港>



さらなる飛躍へ開港40周年

おかげさまで開港40周年



開港40周年記念セレモニーの様子

県本土のほぼ中央、鹿児島市の北東約28キロメートルに位置し、東に霧島連峰、南に桜島が眺望できる台地にあり、鹿児島の空の玄関口として絶好のロケーションを誇る鹿児島空港は、今年で開港40周年を迎えました。3月には長年の悲願だった台北線が開設され、4月には格安航空会社による関西線も就航。国内外や離島とを結ぶ南九州の拠点空港として、鹿児島空港の重要性はますます高まっています。



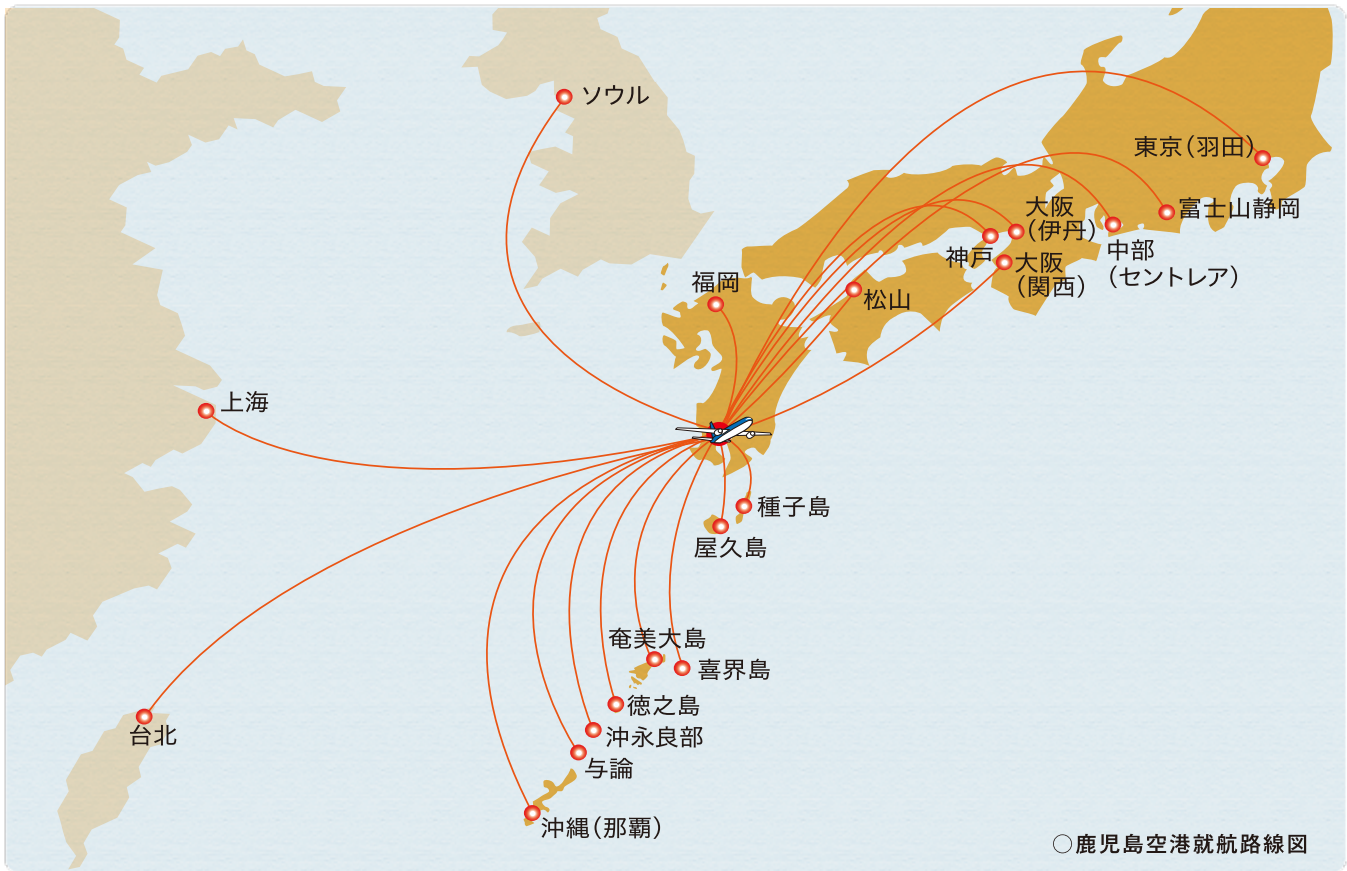
小学生だけのジャズバンド「リトルチェリーズ」ジャズコンサート

40周年記念セレモニー

鹿児島空港は昭和47年に鹿児島市から現在の霧島市溝辺町に移転し、今年で40周年となりました。それを記念し、4月1日に鹿児島空港国内線ターミナルビル2階でセレモニーが開催され、小学生だけのジャズバンド「リトルチェリーズ」のジャズコンサートや、鹿児島空港一日空港長の任命式などが行われました。
今年はこのほかにも記念事業が行われる予定です。

鹿児島空港の姿

KAGOSHIMA AIRPORT



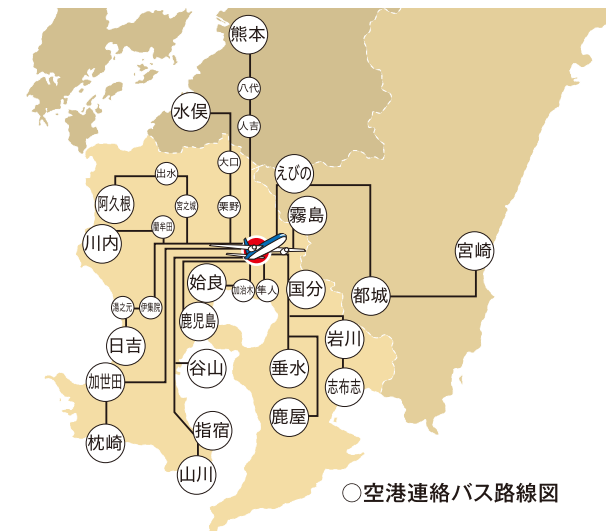
○平成22年空港別着陸回数順位 (国内線・国際線)

順位	空港	乗降客数年間(回)
1	東京国際空港(東京都)	171,402
2	成田国際空港(千葉県)	96,323
3	福岡空港(福岡県)	68,675
4	那覇空港(沖縄県)	65,453
5	大阪国際空港(大阪府・兵庫県)	64,005
6	新千歳空港(北海道)	54,603
7	関西国際空港(大阪府)	53,356
8	中部国際空港(愛知県)	42,342
9	鹿児島空港(鹿児島県)	31,729
10	仙台空港(宮城県)	22,977

○平成22年空港別乗降客数順位 (国内線・国際線)

順位	空港	乗降客数年間(人)
1	東京国際空港(東京都)	64,211,074
2	成田国際空港(千葉県)	30,780,002
3	新千歳空港(北海道)	16,748,180
4	福岡空港(福岡県)	16,344,552
5	大阪国際空港(大阪府・兵庫県)	14,788,543
6	那覇空港(沖縄県)	14,525,656
7	関西国際空港(大阪府)	14,220,204
8	中部国際空港(愛知県)	9,271,382
9	鹿児島空港(鹿児島県)	4,967,625
10	熊本空港(熊本県)	2,874,963

規模
開港当時2500メートルであった滑走路は、昭和52年に3000メートルまで延長され、大型機による長距離飛行が可能になりました。
現在、鹿児島空港は東京国際空港(羽田空港)、大阪国際空港(伊丹空港)をはじめ、県外9空港と県内離島の7空港を結んでいます。また、国際線は、ソウル線、上海線に加え、平成24年3月25日からは台北線が定期運航を開始しました。



利用状況
現在、午前7時30分過ぎの出発便から午後9時の到着便まで14時間の運用がなされています。また、空港のすぐ目の前に九州自動車道のインターチェンジがあるなど利便性も高く、鹿児島中央駅との間を最短38分で空港連絡バスが運行しているほか、県内各地はもちろん、熊本や宮崎へも運行しています。
開港当初、年間約170万人だった乗降客数は、ピーク時の平成14年には約620万人にまで増加。近年徐々に減少しているものの平成22年には約500万人が利用しており、九州では福岡に次いで2番目、全国でもベスト10に入る我が国の主要空港の一つです。





【広大な十三塚原地と鹿児島空港】



【開港当時の空港ターミナルビルとエプロン】



【昭和47年4月1日に現在の霧島市に新空港開港】

霧島連山の麓、標高271.6mにあり、南に桜島・錦江湾を眺望する美しい景観に恵まれた鹿児島空港。開港当時、エプロンには駐機スポット7バースが設けられていました。

鹿児島空港40年の歩み

○昭和47年4月1日に、鹿児島空港は鹿児島市鴨池から現在の霧島市溝辺町に移転しました。

旧鹿児島空港（鴨池空港）は、北側に河川や国道、人家が密集して、南側も水深が深い錦江湾が広がっていたことから、航空輸送の増大に伴う航空機の大形化やジェット化への対応に必要な滑走路の延長などが困難と判断されました。そこで、新たな空港の建設が検討され、昭和43年に新空港の建設地を旧溝辺町と旧隼人町にまたがる十三塚原^{つかばら}に決定。昭和45年に新空港の建設が着工され、2年後の昭和47年に2500メートルの滑走路を有し、ローカル空港初の国際線併用空港となる新鹿児島空港の併用が開始されました。



【3,000mに延長された滑走路】

○開港当時の鹿児島空港は、総面積が143ヘクタールでしたが、後に滑走路を3000メートルに延長するなど、現在では182ヘクタールまで広がりました。また、開港時、空港の運営管理や旅客サービスの中核となるターミナルビルには、国内線と国際線の両方のロビーが設置されていましたが、開港10年目の昭和57年には、従来の空港ターミナルビルに隣接する形で国際線旅客ターミナルビルが建設され、国際空港にふさわしい機能を備えた施設整備が進みました。

さらに、平成6年には国内線ターミナルビルを1・5倍に、平成9年には国際線ターミナルビルを2倍にそれぞれ増築。鹿児島空港を拠点とする路線も国内外含めて19路線となり、開港以来40年間で、国内線延べ1億8300万人、国際線延べ225万人と、多くの方々に利用される南九州のハブ空港へと発展してきました。



【開港時の鹿児島空港と霧島連峰】

鹿児島空港を満喫!!



① ギャラリーフレンドリー

空港で過ごす時間がより楽しいものになるようにギャラリーを開設。県内の学生が描いた作品や写真展、また旬の話題などを提供しています。

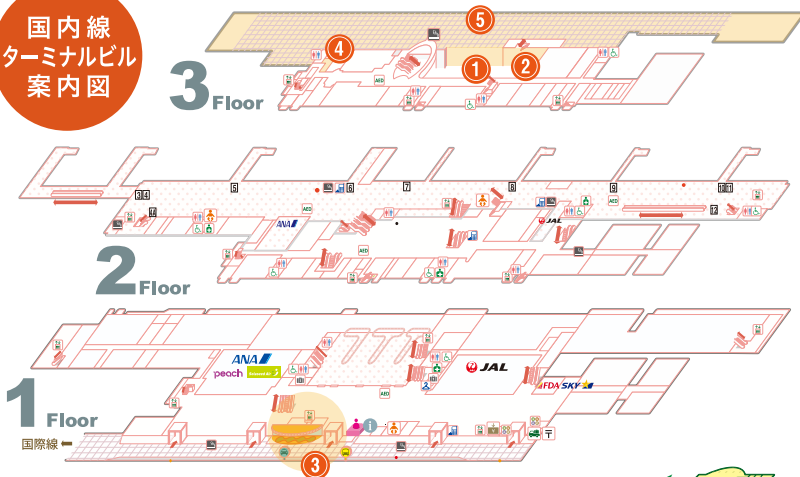


② 航空展示室 **SORA STAGE**

鹿児島空港の歴史や、現在就航している航空会社についての紹介をはじめ、世界的に有名な航空機の機体のモデルプレーンやパネルを展示し、航空に関するさまざまな紹介を行っています。



国内線
ターミナルビル
案内図



③ 天然温泉足湯「おやっとさあ」

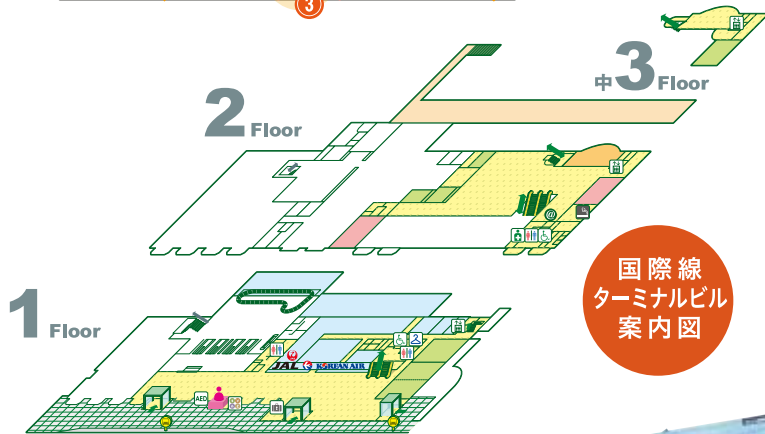
国内有数の温泉地である鹿児島をPRするための施設として平成17年から足湯が設置されています。天然温泉の足湯は空港を訪れる多くの方に親しまれ、癒やしを提供しています。

④ リラクゼーションルームおたるな

疲れた身体を癒すマッサージ。短い時間でも受けられる、さまざまなメニューが用意されているので、旅の移動の合間にもご利用できます。

⑤ 展望デッキ

霧島連山を背景に飛行機の発着を見られる絶好のロケーションです。2007年には芝生を設置し、ターミナルビル内の断熱効果も高めています。



国際線
ターミナルビル
案内図

フリーマガジン「ソラマガ」

空港内の買い物情報などを掲載したフリーマガジン「ソラマガ」。鹿児島の土産物やレストランの情報も掲載されているほか、空港内外の情報をこの一冊で手に入れることができます。



航空教室

小学校高学年(4~6年生)と保護者を対象に、空港内のさまざまな施設の見学を定期的に無料で実施しています。通常では見られない場所を見ることができるため人気のイベントです。

